

# ひとを育てる活動

現地でも学校再開！

— 臨時教育年度は8月から2021年5月まで（4、5月の夏休み返上） —

## 出勤自粛で報告遅れました！

教育支援パートナー・CMIP 事務局チャリスから、2 か月ぶりの現況報告が届きました。以下お伝えします。

### ニンノ電気科卒業！8月からナブル小で教えます



コロナで式典無しでしたが、正装して一人一人記念撮影をしました

カレッジ奨学生は、卒業後1、2年間、山岳部辺境の村にあるCMIP校のボランティア教師(月5千円程度の手当て支給)を勤めることになっていて、ニンノもナブル小赴任が決まりました。任期終了後は専門学校で教えるというのが夢です。

### 早めの給食支援助かっています

学校再開前の給食費支援ありがとうございます。町域を超えての外出禁止で、農産物を売る手立てがなく、住民の多くは困窮していました。アトモロック、ナブル等4小学校区の困窮世帯へのお米配布に充当させていただきました。

## 長期にわたるブラクール校支援に感謝

— 今年度末で定期支援終了のブラクールから —

教育支援を通じて、ブラクールの子どもたちに生きる力を与えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

身につけた資格や技能をコミュニティに還元するという方針により住民全体の生活も徐々に改善されてきました。生きる上で役立つ知識や技術習得を重視した教育の成果とも考えています。そして、これは何よりも支援を続けて下さった皆様のおかげであり、長く記憶にとどめられ、次世代に伝えられることと思います。

(PFP 経由で届いた住民組合グリーン代表の手紙要約：文責山崎)



元ブラクール校農園での週末の野菜作り

### ブラクール支援の歴史

ブラクール小はSCMSI校の1つとして1983年に設立、同時に日本の支援開始。1994年、SCMSI傘下から住民組合MTBCAI運営に移行、日本側もJOFPAから山口県のNPO法人FOTに移行。2002年のFOT解散によりHANDSがその支援を引き継ぐ。アグロフォレストリー等収入向上事業の成果や30分圏内の公立小新設を受けて、2019年10月、定期支援は2020年度で終了を示唆したところ、住民組合も了承、高学年から順次、隣村の公立への転校が始まった。

元ブラクール校構内には町支援の生協店舗も設置され、住民の地域活動の場としても活用されている。(事務局)

### <あしなが奨学金の現地パートナー変更と新規受給者の決定>

元FOT会員支援の「あしなが奨学金」は、諸事情により、従来の管理者PFPからボルールの組合TBA委託に変更させていただきました。6月初めには奨学生2名のプロフィールも届きましたが、紙面の関係で、詳細は次号とさせていただきます。

## コロナによるオンライン入学手続き、オンライン授業

— 山岳部ボルール出身カレッジ生の場合 —

3月中旬から全国的に休校となっていたフィリピンですが、チボリやビラーンの子どもたちも8月下旬にはようやく学校に戻ってきます。カレッジ奨学生の入学手続きも6月から始まりました。しかし、諸手続きはオンラインのみというカレッジもあり、新たに奨学金管理を委託したボニファシオ(ページ下部に関連事項)の6/7付メールには、ボルールはネットが繋がらず、外出自粛で町のネットカフェ利用も厳しいとありました。その後規制が緩和され、7/5付で入学手続き無事終了の報告が届きました。



コロナ問題に関連したオンライン化、その影響は、ダバオ医大に学ぶジェニーの4/23付の手紙にもありました。「都市部の学生は実家に帰ってオンライン受講しているが、ボルールはネットが繋がらないため、ダバオに残っている」ということでした。医学部は実習を含めて必須単位数が多いためか、教育省による3月中旬以降の休校措置にもかかわらず、ジェニーの学生アパートでのオンライン受講は4月下旬も続いていました。奨学金担当チャリスによると、例年より食費がかかっているとのことで、2020年度用奨学金を早めに送金しました。

## JOFPA 基金奨学生モナリサ、助産師への道

— 卒業までの日々をつづった手紙から —

2月末に受領しながらご報告が遅れていたもので、モナリサはすでにPIHS助産所の常勤として働きながら、国家試験合格準備を進めています。



卒業まであと1か月となり、月と火曜の講義、水から金曜の病院実習、週末のコミュニティ巡回健康診断と、充実した日々を過ごしています。うち、救命救急室、産婦病室、分娩室、ICUの4チームに分かれての病院実習が一番好きです。緊張したのは、救急救命現場での腎臓病患者へのカテーテル装着です。何とか成功してほっとしました。分娩実習で、息をしていない赤ちゃんが、医師の処置で産声を上げた時は感動でした。ほっとした様子の産婦から、食物を買うお金がないといわれて一瞬戸惑いましたが、手元にあった90ペソのうち50ペソ渡しました。母子とも元気でいてほしいと思います。

## JOFPA 基金最後の奨学生は臨床検査技師志望のザイラに決定

看護師、助産師各1名を育てたJOFPA基金奨学金。ザイラは、残額の8万円とHANDSカレッジ奨学金で支える予定です。